

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1229号	氏名	木須 友子
論文審査担当者		主査教授	門司 和彦
		副査教授	青木 克己
		副査教授	青柳 潔
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究はマンソン住血吸虫症の簡便で迅速な診断方法としての質問紙法の有効性を検討したもので、研究目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 マンソン住血吸虫症の浸淫地にあるタンザニアの小学校において糞便検査と自覚症状等に関する質問紙調査を集団治療前と1年後に実施し、集団治療前の治療経験の有無が質問紙の答えに影響するかを解析した。以上の研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、治療を受けた経験のない対象では腹部症状によって感染の有無が診断される可能性が期待された。一方、治療経験があると自覚症状はあいまいになり自覚症状による診断は困難になった。治療歴の有無により自覚症状による質問紙によるスクリーニングの有効性に大きな影響があることを明らかにしており、評価できる。</p>			
<p>以上のように、本論文はマンソン住血吸虫症の質問紙診断方法の限界を示すとともに治療歴のない対象においては質問紙を使った診断の可能性を示し、今後のマンソン住血吸虫症対策研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			